

(様式 5-1)

地域重点施策推進事業事後評価調査(令和2年度実施分)

地域振興局名

仙北地域振興局

(地域施策推進事業)

事業名	部名	部長名	担当課	担当班名	電話番号	事業目的・必要性	事業費 (円)	事業実施状況	事業実施 主体	事 業 対象者	事業決定月日 (部局長会議 等) 及び評価確定日	事業効果 (成果・満足度)	自己評価
「生まれたこの街 で働く選択(いき かた)」応援事業	総務企画 部	加藤金孝	地域企画 課	企画・観光 振興班	0187-63- 5114	「仙北地域若者雇用 サミット」及び「企業 リーダーによる意見交 換会」の場において生 まれた具体的な提案 に基づく、事業の実施 により、若者や管内出 身者の地元就職・定 着のための理解促進 を図る。従来の高校 生を対象とした事業に 加えて、大学・一般社 会人などの新たな事 業ターゲットに寄り添 い、それぞれのライフ プランに応じた「ふる さと回帰」の流れを作 り出す。	848,409	(1)高校3年生向け求人説明会 ・管内企業への就職を希望する高校3年生を 対象として、ハローワークに提出済の高卒求 人票の内容を企業が生徒に対して直接説明 する機会を提供した。 開催日：令和2年8月3日 会場：グランドパレス川端 生徒：101名、企業47社 (2)高校2年生向け求人説明会 ・進路選択が本格化する高校2年生を対象と して、大学卒業後の地元回帰を狙い、進学予 定者が多い高校(角館高校)において校内企 業ガイダンスを開催するとともに、主に就職 希望者を対象とした仙北地域企業説明会を 開催した。 ①開催日：令和2年12月11日 会場：角館高校企業ガイダンス 生徒：225名、企業15社 ②開催日：令和3年2月15日 会場：仙北ふれあい文化センター 生徒：340名、企業33社 (3)大曲・仙北地域「就職&移住フェア」 ・管内市町やハローワークと連携し、地元企 業や居住環境の情報を発信した。 開催日：令和3年2月28日 会場：大曲エンバイヤホテル 参加者：49名、企業32社 (4)地域で働く人・企業のラジオ紹介「んだ。ん だ。30分」 ・FMはなびとの協働事業として、この街で働 く人や企業の取組などについて、コミュニティ FMのラジオ番組を通じて紹介した。 放送日 奇数月の毎週日曜日15時～15時 30分(最終週除く) 内 容 人や企業・団体にスポットを当てた 活動紹介等 (5)仙北地域若者雇用サミット ・若者定着支援の視点から意見交換を行っ た。 開催日：令和3年2月3日 会場：大曲エンバイヤホテル 参加者：管内の7高校校長、 7経済団体、各市町長、 各市町教育委員会委員長等 (6)企業リーダーによる意見交換会の開催 ・人材確保・育成をテーマに民間企業の若手 経営者と意見交換を行い、事業承継に対す る思いや課題、新たな事業展開などについて 意見交換を行った。 開催日：令和2年10月21日 会場：大曲エンバイヤホテル 参加者：若手・次世代経営者12名	県	高校生、一 般求職者、 企業、経済 団体、市町 長、学校 長、市町教 育委員会、 一般民間 人等	令和2年4月1日 (1) ・参加企業からは「役に立つた」 との意見が約70%あった。 (2) ・参加生徒からは「見学したこと で学ぶものがあつた」、「自分の 将来(進路)に役立つ情報が あつた」との意見が約95%に達し た。 ・教職員からは「有意義であつ た」、「ぜひ、毎年続けてほしい」 との意見が多かつた一方、「進 路に対する意識づけの意味か らもう少し早期に行った方がい い」との声があつた。 (3) ・参加者からは本イベントを知 ったきっかけとして「各市町広報」 及び「ハローワーク」がそれぞ れ37%ずつ占めた。 ・参加企業は行政の企業支援メ ニューの中で一番関心を持って いるのが就職面接会であること がわかつた。 ・運営全体について「良い」と 「まあまあ良い」を合わせると約 62%であつた。 (4) ・各月により番組を企画し、市 民に身近な地元コミュニティFM を活用した県事業等を紹介し た。 (5) ・企業経営者からは「子供のう ちに自然環境の豊かさについ て祖父母や親と体験することが重 要」との意見があつた。 ・各市町教育委員会委員長から は「ふるさとキャリア教育を推進 するため中学と高校の連携が 必要」との意見があつた。 (6) ・若手経営者からは家業を継い だ理由として「家族の幸せのため」、 「地元をもっとよくしたい」、 「自分がその家に生まれたから」 との話があつた。また、現在の 状況及び将来の取組として「コ ロナの影響により受注が大幅 に減つたが、県の支援を受け 新しい産業に挑戦している」と の話があつた。	令和3年5月20日 (1) ・企業側の満足度が高く、継続して実施す べきである。 ・一方で「事前にどの程度の希望者がいるか 教えてほしい」、「短時間の会社別PRタイム を設けてほしい」などの意見があり、今後の検 討課題である。 (2) ・企業側・学校側ともに満足度が高く、継続し て実施すべきである。 ・一方で企業の中には「興味の少ない生徒の存 在」を感じたケースや、「時期が早すぎる」との 意見があつた。 ・教職員からはおおむね好評であつたが、「9 月までに実施してほしい」との声があり、今後 の検討課題である。 ・生徒からもおおむね好評であつたが、「ロー テーション(3ローテーション)を増やしてほ しい」、「もう少し長くやってほしい」との声が あり、今後の検討課題である。 (3) ・企業側から高い関心を持たれており、継続し て実施すべきである。 ・一方で新型コロナウイルス感染拡大に伴い 実施時期が昨年度より遅くなつてしまったこと などが影響し、来場者は昨年度の半数未満 に留まつてしまったことは、今後の検討課題で ある。 (4) ・地域で頑張る企業や団体、若手起業家等を 紹介するとともに、県内有数の観光地を紹介 することにより、魅力ある仙北を発信すること ができた。 ・新型コロナウイルス感染拡大により地域が 沈滞しがちな状況であるからこそ、仙北の魅 力を発信し続け、地域で生きることの良さを広 く周知することが必要である。 (5) ・若者の地元定着に向けた課題について、行 政、企業、教育各団体のトップが集まり、それ ぞれの立場で課題を出し合い、情報を共有す ることにより今後必要な取組が見えつつあり、 さらに具体的取組等について議論を深める必 要がある。 ・一方で新型コロナウイルス感染拡大が収 まていない中、地域のトップが一堂に会する ことへのリスクも考慮に入れる必要があり、開 催形式については今後検討が必要である。 (6) ・新型コロナウイルス感染拡大が続く中、企業 経営においても従来とは異なる視点が求めら れており、次世代経営者が自社及び地域の 発展にいかに取り組んでいくべきかについ て、本意見交換会における議論がヒントとなり つつあり、継続実施すべきである。	

事業名	部名	部長名	担当課	担当班名	電話番号	事業目的・必要性	事業費 (円)	事業実施状況	事業実施 主体	事業 対象者	事業決定月日 (部局長会議 等) 及び評価確定日	事業効果 (成果・満足度)	自己評価
ワークライフバ ランス推進事業	総務企画 部	加藤金孝	地域企画 課	企画・観光 振興班	0187-63- 5114	男性がより主体的・ 積極的に育児・家事 に参画できるよう促す 啓発物(父子手帳)を 配付することにより、 女性の子育ての負担 軽減やワーク・ライフ・ バランスに配慮された 職場づくりを進め、 もって出生者数の減 少抑制と企業の人材 確保・活性化に資す る。	36,750	(1)父子手帳の配付 ・管内市町の母子手帳交付時に、父子手帳 も配布した。 配布部数:大仙市 500部、仙北市 100部、 美郷町 100部 (2)事業の官民協働の検討 ・新聞等への記事掲載により企業への父子 手帳の周知を行った。 (3)事業の効果的実施のための職場環境づく りの普及啓発 ・父子手帳等を参考に、男性社員の育児・家 事の主体的・積極的参加を促し、支援できる 職場づくりを行うよう啓発物(チラシ)を作成 し、配布した。 配布部数:3,000部 配布先:企業及び商工団体	県	子育て世 代のもの、 企業経営 者	令和2年4月1日 令和3年5月20日	(1) 計画通り、令和2年4月より、 各市町の妊娠届受付窓口、子 育て支援担当課、男女共同参 画担当課、仙北地域振興局に て随時配布を実施。 (2) 新型コロナウイルスの影響に より、管内企業への直接的な働 きかけはできなかった (3) 6月に啓発物(チラシ)を作 成。管内商工団体にに対し会報 への折込、窓口での配布などに よる会員企業への周知を依頼 した。 なお、商工団体の総会での配 布については、新型コロナウイ ルスの影響により総会が中止さ れたため、行わなかった。	・親になる男性に対し子育てに積極的参加を 促すきっかけの1つにはなったと考えられる が、新型コロナ感染症の影響により企業への 直接的な働きかけができなかったため、具体 的成果について確認できなかった。 ・今後は企業経営者に対する直接的アプロ ーチにより男性従業員の子育て参加を促す取 組について、検討が必要である。
関係人口づくり推 進事業	総務企画 部	加藤金孝	地域企画 課	企画・観光 振興班	0187-63- 5114	県外からの観光客 に対し、帰ってから 仙北地域の県外応援 団として関わること ができる方法の普及 啓発を行うことにより 関係人口を増やし、 地域づくりの推進に 寄与する。	146,900	(1)インターネットサイトの整備 ・管内市町のふるさと納税や特産品通販、移 住支援等のサイトへリンクする総合案内サイ ト「大仙・仙北・美郷のファンづくりサイト」を美 の国あきた内に整備した。 (2)県外からの観光客への普及啓発(中止) ・「大曲の花火」に大型バスを利用して来県す る観光客に上記サイトを紹介するPRグッズ (うちわ)を配布し関係人口の拡大を計画して いたが、新型コロナウイルス感染症の影響に より「大曲の花火」が中止となったため、代替 として次の事業を行った。 (2)-2管内高校の卒業生への普及啓発((2)の 代替) ・管内の高校を卒業する生徒の中には、進学 や就職で当地域を離れる生徒もあり、県外に 転出しても関係人口として当地域と関わりを もってもらうことを目的に、「大仙・仙北・美郷 のファンづくりサイト」のPRグッズ(絆創膏)を 配布した。 作成数量 1,300個 配布先 7校 (3)帰省客向けの普及啓発(県南地域Uターン フェア)(中止) ・新型コロナウイルス感染症の影響から、お 盆、年末年始の帰省客が望めないことから、 開催を中止した。	県	移住希望 者、高校3 年生	令和2年4月1日 令和3年5月20日	(1) 大仙・仙北・美郷に興味を持 ち、応援したい方のサイトアクセ スが容易となった。 (2)-2 「美の国あきた」を閲覧する可 能性が少ないと思われる10代 の学生へサイトのPRグッズを 配布したことにより、進学や就 職により県外へ転出した後にお いても、ふるさとへの思いを持 ち続けるきっかけとなっていると 考える。	・仙北の良さを広くアピールする活動を今後と も継続する必要があることから、県外からの 観光客等に対し、同サイトと観光情報を掲載 したPRグッズ(うちわ)を配布する予定

事業名	部名	部長名	担当課	担当班名	電話番号	事業目的・必要性	事業費 (円)	事業実施状況	事業実施 主体	事業 対象者	事業決定月日 (部局長会議 等) 及び評価確定日	事業効果 (成果・満足度)	自己評価
移住者受入支援 事業	総務企画 部	加藤金孝	地域企画 課	企画・観光 振興班	0187-63- 5114	移住者のネットワー クづくり支援及び空き 家バンク登録物件の 掘り起こし等を行うこ とにより移住者の満足 度向上と定着を図り、 もって移住者と地元住 民が一体となった地 域活性化の実現に資 する。	184,399	(1)移住者のネットワーク活動支援(中止) ・仙北地域の移住者交流コミュニティとして、 県、市町、先輩移住者をコアメンバーとして令 和元年度に立ち上げたFacebokページ「住む ぜ、雪国」について、チラシを作成し仙北地域 への移住者、移住に理解のある地域住民、 移住希望者に周知し、移住に係る相談や意 見交換が活発に行われることを期待していた が、移住者等の投稿はない状態であり、また Facebookは行政が投稿し難い仕様のため、 今年度のチラシの作成・配布による周知は行 わなかった。 一方で、別事業ではあるが、移住・定住促 進課の「先輩移住者団体による定着サポート 事業」に参画し、管内の移住者のネットワーク 強化支援や管内への移住・定住に当たって の意見聴取を行った。 (2)空き家の無料相談会 空き家の無料相談会を開催し、空き家バンク への登録等空き家の利活用を促進する。 ・第1回 開催日 令和2年6月6日 会場 美郷町南ふれあい館 件数 6件 ・第2回 開催日 令和2年7月18日 会場 仙北市角館交流センター 件数 8件 ・第3回 開催日 令和2年8月16日 会場 大仙市大曲交流センター 件数 22件	県	移住者、移 住希望者、 空き家所 有者	令和2年4月1日	(2) ・空き家バンク登録(2件)、解体 (3件)、売却(1件)につながり、 空き家の解消に結びついた。 ・相談者の満足度が84%と高く、 ニーズに合った行政サービスの 提供ができています。 ・相談対応者も当該事業の必要 性を認識しており、継続していく ことで団体間の連携や相談対 応の質向上が期待できる。	(2) ・空き家バンク登録や売買に結びつくのがま だ少なく、空き家の減少や団体の利益にそれ ほど結びついていない。 ・コロナ禍により感染拡大地域居住者の相談 を断ることとなったため、対面式相談に加え、 リモート相談を開催予定(R3年度) ・相談内容の充実のため相談対応者への事 前の情報提供や調整が必要。
防災意識啓発事 業	総務企画 部	加藤金孝	地域企画 課	企画・観光 振興班	0187-63- 5114	大規模自然災害が 頻発する中、災害に 対する積極的な備え と発災時の対応等 について気軽に学べる 機会を作り、地域全体 の防災意識の向上を 目指す。	117,438	防災カフェの開催 「災害報道で学んだリアルから考えたママ目 線の実践的防災術」と題し、災害時は自分の 身は自分で守るための準備をしておくことの 重要性について講演を行った。また、クイズ 形式での学習や、非常用持出リュックを背 負って避難体験、非常用持出リュックの中身 の紹介などを行った。 ・第1回 開催日 令和2年11月15日 会場 美郷町中央ふれあい館 参加者 大人15名、子供11名 ・第2回 開催日 令和2年11月29日 会場 大仙市立大綱交流館 参加者 大人15名、子供12名	県	子育て世 代の者	令和2年4月1日	・アンケートによると、参加者全 員が「満足」以上の評価であ る。 ・「自分と家族の命を守るため、 気持ちを引き締めてお片付けか ら始めたい」、「人ごとと思ってい たところを見直し、家族の身を守 れるよう努力したい」、「資料 を見るよりも、実際に防災の話 を聞くことで大変分かりやす かった」等の声があった。	・参加者のアンケートでは、今後、防災対策に 取り組みたいという意見が多く、講師が報道 現場で見たリアルな体験談や、子育て中の親 ならではの講話内容が参加者に浸透したと思 われる。 ・また、託児スペースを設けることで子育て世 代の方も安心して参加できたと思う。 ・コロナ禍では避難所内の密集状態を避ける 必要もあることから、今後はアウトドアにおけ る父親を含む家族向けの講習会が必要である。

事業名	部名	部長名	担当課	担当班名	電話番号	事業目的・必要性	事業費 (円)	事業実施状況	事業実施 主体	事業 対象者	事業決定月日 (部局長会議 等) 及び評価確定日	事業効果 (成果・満足度)	自己評価
仙北地域への誘客促進事業	総務企画部	加藤金孝	地域企画課	企画・観光振興班	0187-63-5114	管内や周辺地域を含む一体的な情報発信・売り込みにより、誘客促進を図る。	549,192	(1)隣県の隣接地域との協働による誘客・周遊促進 雫石・田沢湖・角館地域誘客促進事業実行委員会へ参画し、冬季の誘客促進事業「冬のささえ愛キャンペーン」として抽選により、岩手と秋田で利用できる商品券のプレゼントをした。 賞品 商品券5,000円(雫石2,000円、田沢湖・角館2,000円、共通1,000円) 応募期間 令和3年1月10日～1月24日 当選枚数 200枚 (2)冬季における誘客・周遊促進 新型コロナウイルス感染症の影響で「県南冬まつりスタンプラリー」を中止としたが、代替として「秋田県南地域7つの冬まつりキャンペーン」を実施した。仙北地域振興局が保有するツイッターアカウントをフォローし、キャンペーンツイートをリツイートまたは引用リツイートしたアカウントを対象に抽選で賞品のプレゼントをした。 ①引用リツイート賞品 大仙市地域賞：大仙市特産品詰め合わせ(大仙市観光物産協会)10,000円相当 仙北市地域賞：樺細工桜皮箸ラデン夫婦セット(八柳)2,800円相当 美郷町地域賞：今日の食事は美郷三昧セット(あきた美郷づくり)10,000円相当 ②リツイート賞品 横手市地域賞：横手ヴァイナリー葡萄酒チーズケーキ 湯沢雄勝地域賞：湯沢雄勝特産品セット (3)県外における観光PRへの参加(中止) 新型コロナウイルス感染症の影響で中止 (4)誘客増や受け入れ態勢整備の検討 観光客の滞在時間・日数を延長させることで、観光消費額を増加させ、地域の活性化につなげるための取組を検討するワークショップを実施。振興局が主催し、管内の3市町及び3観光団体が参加した。 (5)新たなコンテンツの発掘・磨き上げなどを含む情報発信の強化 ・あきたファンドットとコム、アキタ/NAVI(全県共通)に仙北管内のイベント情報等を掲載し、情報発信を行った。 ・ブログ、facebook、Twitter、Instagram(振興局独自)に管内の新たな観光スポットや地域の新しい取組を取材し、上記SNSを活用して情報発信を行った。	県、雫石・田沢湖・角館地域誘客促進事業実行委員会	観光客、一般県民、市町、観光団体	令和2年4月1日 (1) ・応募総数1,970に達し、同時に実施したアンケートによると田沢湖・角館エリアを訪れる目的として、1位の「自然や景観」と2位の「歴史や風土、伝統文化」が大多数を占めており、これらが目的であることが改めて明らかになった。 (2) ・フォロワーが144人から436人になり、キャンペーンツイートに対し、リツイート223件、引用リツイート85件となった。期間中に冬まつりの紹介ツイートをし、知名度を高めることができ、来年度以降の誘客につながると考えている。 (4) ・広域観光について、情報共有や意見交換を行うための貴重な場となっている。 (5) ・振興局で運用するSNSのフォロワーは順調に増加している。	(1) ・令和2年度は新企画として商品券プレゼント企画を実施したが、令和元年度まで実施していたお得な宿泊券と比較し、一般県民に対するアピール度がどう違ったのか今後の分析が必要である。 (2) ・令和2年度は代替としてツイッターを利用したキャンペーンを行ったが、感染状況次第で令和3年度もスタンプラリーを実施できない可能性がある。 (4) ・取組案の実現に向けて、各団体の幹部とのコンセンサスをとる必要がある。 (5) ・訴求力を向上させるため、タイムリーな情報発信や関係機関のSNSとの連携に努めていく必要がある。	

事業名	部名	部長名	担当課	担当班名	電話番号	事業目的・必要性	事業費 (円)	事業実施状況	事業実施 主体	事業 対象者	事業決定月日 (部局長会議 等) 及び評価確定日	事業効果 (成果・満足度)	自己評価
地域の活性化に向けた活動促進事業	総務企画部	加藤金孝	地域企画課	企画・観光振興班	0187-63-5114	地域活性化活動を実施・支援することにより、多様な主体による様々な地域活性化活動の促進を図る。	500,586	(1)秋田内陸線沿線での田んぼアートによる景観づくり 秋田内陸活性化本部、北秋田地域振興局、グリーンたざわ湖と連携して、内陸線沿線に田んぼアートを制作 日 時 令和2年6月3日(水)〈田植え〉～10月2日(金)〈稲刈り〉 場 所 仙北市上桧木内(内陸線上桧木内駅前) 絵 柄 「秋田犬と上桧木内の紙風船」 (2)100kmチャレンジマラソン運営支援(中止) 令和2年度に第30回記念大会の開催が予定されていたが、新型コロナウイルス感染症の影響で令和3年9月26日に延期となった(その後、令和3年度も中止となった)。 (3)フリースタイルスキーワールドカップ秋田たざわこ大会運営支援(中止) 新型コロナウイルス感染症の影響で中止。令和3年度は実施予定。	県、農家	観光客、参加選手	令和2年4月1日	(1) ・内陸線の見どころを創出し、仙北地域の活性化の一助となった。	(1) ・地元住民の協力のもと実施することにより、地域の活性化には多様な主体の協働により達成させるものであるとの意識を醸成させ、地域への愛着を深めることにつながる事が期待できるとともに、活発な地域協働活動について目に見える形により一般観光客に対しアピールすることは、アートの美しさのみならず、地域の温かさ、連携に魅力を感じさせ、この地域を再度訪れてみたいと思わせる効果も期待されることから、今後とも継続すべきである。
											令和3年5月20日		
働き盛り世代の健康づくり事業	福祉環境部	豊島優人	健康・予防課	健康・予防班	0187-63-3404	職域関係団体の協力を得ながら、管内事業所へ健康づくりの必要性を広く周知するため、「健康づくり通信」の配布を通して健康寿命延伸に向けた啓発を行う。	168,940	「健康づくり通信」の作成と配布 ホームページを活用した情報提供	県	商工会議所・商工会従業員、市町村等	令和2年4月1日	・「健康づくり通信」の配布について、関係者の協力を得て、すべての会員に配布することができた。	・今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、健診の受診率が低下しているため、次年度は健診の受診勧奨を含めた内容を盛り込む必要がある。
											令和3年5月20日	・令和元年度に実施したモデル事業(3カ所)の内容を「健康づくり通信」に掲載することにより、他の商工会議所等から広く関心を得ることが出来た。	・次年度も新型コロナウイルス感染症の流行が予想されるため、Webによる「健康づくり講座(仮)」の開催を検討。

事業名	部名	部長名	担当課	担当班名	電話番号	事業目的・必要性	事業費 (円)	事業実施状況	事業実施 主体	事業 対象者	事業決定月日 (部局長会議 等) 及び評価確定日	事業効果 (成果・満足度)	自己評価
地域感染症対策 強化事業	福祉環境 部	豊島優人	健康・予防 課	健康・予防 班	0187-6 3-3404	令和元年12月に中 国で発生した新型コ ロナウイルス感染症は 世界中に広がり、日本 も例外ではなく、秋田 県においても感染者 が発生している。 これまで、当部では 抵抗力の弱い利用者 が生活する高齢者・障 害者福祉施設での感 染拡大及び重症化等 を防ぐため、冬季に流 行するインフルエンザ やノロウイルスをテー マに感染症対策を行 ってきた。 令和2年度は、新型 コロナウイルス感染症 の流行及び管内高齢 者施設2箇所(職員3 名)での感染発生を受 け、施設の感染症対 策に課題があること、 施設においても発生 時の対応に不安が大 きいことから、平常時 の準備、発生時の対 応、感染予防対策等 の指導を行い、地域 の感染症対策の強化 を図る。	64,730	1 注意喚起、情報発信 ◆通知文書の送付 【日時】令和2年12月4日(金) 【対象】社会福祉施設(高齢者・障害者入所 施設)116ヶ所 【内容】「冬期における感染症の流行」につ いて、対象施設に注意喚起文書の送付 ◆当部ウェブサイトより情報発信 2 感染症対策 ◆感染症対策研修会 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため 中止とし、公的機関のみ実施 【日時】令和2年11月5日(木) 【場所】仙北市保健センター 【出席者】仙北市保健師・栄養士 20名 【内容】「コロナ禍における災害支援の在り方 研修」 ◆施設内勉強会への支援 【内容】 新型コロナウイルス感染拡大防止 のため、施設等への訪問は避け、資料等を 提供 ◆新型コロナウイルス感染症に関する個別 相談の実施 【内容】 感染症が発生した場合の対応、ゾー ニング、消毒方法等について随時対応	県	社会福祉 施設・学 校・事業 所・商工会 等	令和2年4月1日	・施設や事業所等からの相談に 対しては、ウェブサイトと同時に 見ながら、説明を行った。 また、新型コロナウイルス感染 症の発生時には、ウェブサイト に掲載した名簿様式等が実際 に使用され、積極的疫学調査に 有効であった。	1について ・当管内では、集団発生には至らなかったもの の、施設職員3名の感染が確認されてお り、施設に対する注意喚起は必須であった。 ・第3波と呼ばれる感染流行期前の通知やウ ェブサイトによる情報提供により、管内の施 設での発生が抑えられていることから、適時 な取組であった。 ・相談対応時にはウェブサイトを活用しており、 今後も内容を拡充し、情報発信を強化して いく必要がある。
											令和3年5月20日	・施設内勉強会に対する支援資 材の提供にあたっては、新型コ ロナウイルス感染症について分 かり易く学ぶことが出来、効果 であったとの声が聞かれた。	2について ・秋田県では大雨、大雪、地震等災害が頻発 し、避難所の実施主体である市町では感染症 対策に対する不安が強かったが、実技を踏ま えた知識の提供など、より実践的な研修で好 評を得た。 ・施設内勉強会への支援は、各施設個々の ニーズに応えるスタイルを構築することがで きた。
アルコール関連 問題対策事業	福祉環境 部	豊島優人	企画福祉 課	調整・障害 者班	0187- 63-3403	アルコール依存症か らの回復のため、相 談、治療、社会復帰ま で連続した支援を管 内の医療機関や行政、 自助グループなどの 関係機関と連携して 取り組むほか、アル コール依存症患者や その家族、関係者に 対し、引き続き相談支 援機関の周知を図る ことにより、早期介入 に繋げることを目的と する。	127,297	○アルコール関連問題地域連携検討会 ・開催日：R2.10.27 ・参加者：22名 ○アルコール依存症に関するリーフレット ・作成部数：1,000部 ・配布先：病院、管内市町、警察署など29カ 所	県	相談機関 職員、病 院、自助グ ループ他	令和2年4月1日	(検討会) ・依存症支援においては様々な レベルの相談窓口が存在して いることがポイントであり、医療 機関に限らず、いずれかの機関 が継続的に繋がることの重要 性を関係機関で共有できたとの 意見が多かった。	・アルコール関連問題地域連携検討会は、昨 年度以上に、より実務的で中身の濃い内容と なり、出席者からも有意義な会であったとの 声が多く聞かれた。
											令和3年5月20日	・アルコール依存症について は、早期に適切な相談機関に 繋がることが重要であり、その 行動を後押しできるようリーフ レットの作成・配布ができた。	・これまで自助グループの活動に参加したこと の無い行政担当者が、上記検討会への出席 を機に参加し始める等、検討会の効果を実感 した。 ・引き続き、アルコール関連問題に悩む本人 や家族が相談しやすい環境整備や、相談支 援者同士の顔の見える関係づくりが必要。

事業名	部名	部長名	担当課	担当班名	電話番号	事業目的・必要性	事業費 (円)	事業実施状況	事業実施 主体	事業 対象者	事業決定月日 (部局長会議 等) 及び評価確定日	事業効果 (成果・満足度)	自己評価
複合型生産構造 の定着・加速化	農林部	石井公人	農業振興 普及課	産地・普及 班	0187-63- 6110	仙北地域振興局管 内での、地域特産園 芸品目等の生産拡大 を図るために、関係機 関との協働により次の 取組を行う。 1 仙北地域の主要な 園芸品目について、 高温障害等現地特有 の諸課題を抽出・分析 し解決に導くことによ り、高収益性作物のさ らなる産地拡大を図 る。 2 既存メガ団地の経 営安定化と新規メガ 団地の円滑な事業化 に向けた支援により、 より早期の事業効果 の発現を図る。	1,191,000	1 高収益園芸作物の地域課題解決と栽培 定着誘導 ①課題解決実証ほ設置 ・薬用作物栽培技術研修会(11/12、13)の内 容を関係者で情報共有した。 ・高温障害軽減対策展示ほ(りんどう)によ り、7月下旬～8月にかけて、畝間かん水を 指導した。 ・えだまめ中晩生種の増収対策として、8/18 にドローンによる省力防除を実証した。 ②品質向上試験 ・ダリア日持ち性向上試験をJA・農試と連携 し7/13～17、10/19～23に実施。大仙市オリ ジナル品種展示をあわせて実施した。 ③先進地研修 コロナ過により中止 2 園芸メガ団地の経営安定化に向けた課題 解決と新たな団地形成の円滑化 ①中仙メガ団地の栽培技術定着と組織経営 の安定化 ・AIかん水施肥システム(ゼロアグリ)の実証 を4/27～11/30に実施 ・作業改善のためのワークショップ研修 冬季ねぎ育苗視察を12/17に実施 労務管理研修を1/27に実施 ②ぶどうの高品質安定生産と流通に向けた 支援 ・ぶどう着色向上対策として、シナノスマイル で新しい袋資材を検討した。 ③畑屋中央地区園芸メガ団地の施設整備の 円滑な推進と経営感覚の醸成 ・先進地視察研修 コロナ過のため中止 ④園芸メガ団地構想地区に対する支援 ・R3年度整備希望団地の掘り起こしと、構想 の具体化、営農計画の策定に対し支援を実 施	県	生産者 園芸メガ団 地営農主 体及び拡 大意向法 人	令和2年4月1日	りんどうでは畝間かん水の実 施により花やけ等高温障害が 軽減され、出荷率の向上により 生産拡大につながった。 AIロボットによる自動かん水 施肥技術の実証により、慣行と 同等収量を確保するなど、生産 安定化に繋がったほか、大幅な 省力化を実現できた。	地域特産品目が抱える生産拡大の課題に 対し、展示ほ等を活用して新技術実証などの 対策を提示できた。 今後は対策技術の普及拡大に努め生産拡 大につなげたい。 ダリアでは大仙市オリジナル品種展示によ り魅力PRに繋がったが、コロナ過での需用が 低迷しており、あらたな課題として需用喚起策 が必要である。 園芸メガ団地に対する支援により、人材確 保だけでなく、雇用した人材育成の重要性に ついて、雇用側の意識を高めることができた。
											令和3年5月20日	園芸メガ団地の掘り起こしの 結果、整備希望地区(3地区4 事業主体)による、ねぎを共通 品目としたネットワーク型のメガ 団地整備に取り組むことの合意 形成が図られた。	

事業名	部名	部長名	担当課	担当班名	電話番号	事業目的・必要性	事業費 (円)	事業実施状況	事業実施 主体	事業 対象者	事業決定月日 (部局長会議 等) 及び評価確定日	事業効果 (成果・満足度)	自己評価
次世代を担う農 業者支援事業	農林部	鈴木慎一	農業振興 普及課	担い手・経 営班	0187-63- 6110	新規就農者を確保し 安定経営により地域 定着を図るため、 ①新規就農啓発だけ でなく、若手農業者が 栽培技術及び経営面 でよりステップアップ するための支援をおこ なう ②女性農業者の6次 化に関する知識習得 と更なる経営力向上 を図るとともに地域を 牽引する新たなリー ダー人材を養成する	179,826	(1)農業簿記研修会(基本簿記、パソコン簿 記)を開催した。 開催日: R2.11.26、12.3、12.15、場所: 地域振 興局・大曲技術専門学校、参加者: 農業近代化 ゼミナール会員等のべ50名 (2)農業高校生と若手農業者交流による就農 意識啓発研修会を開催した。大曲農業高校 生を対象に郷土料理(花みそ)を若手農業者 指導のもと実習をおこなった。開催日: R2.10.26、10.29、場所: 大曲農業高校、参加 者: 3年生70名	県	女性農業 者、仙北地 域農業近 代化ゼミ ナール、大 曲農業高 校等	令和2年4月1日 令和3年5月20日	(簿記参加者) ・参加者からは、『簿記』という 言葉自体に拒否反応があった が、経営管理に興味を持った」 という意見があった。 (交流研修参加者(高校生)) ・「花みそを初めて食べた。他の 郷土料理も知りたい」「秋田の 文化を知ることが出来た」など の意見があった。	・簿記研修は、基礎的な内容で構成し、パソコ ン簿記の実習カリキュラムを組み込んだこと が受講者への高評価につながったと考えられ る。経営管理の関心を高めるのに効果的な手 法であったと評価する。 ・習得した経営管理手法を確実にするため、 記帳の継続を促す必要がある。 ・交流研修は、実習形式としたこと。若手農業 者によるオリジナルレシピ(トマト味)を取り入 れたことで生徒の関心を高めることができた。 ・郷土料理の良さや、アレンジする楽しさ等を 体験したことで、加工・新商品開発の実践(就 農)意欲の啓発につながったと思われる。
管内高校生等を 対象とした現場 見学会	建設部	川村 潤	企画・建設 課	企画監理 班	0187-63- 3111	担い手不足が深刻 化している建設産業 への就労促進とふる さとへの定着を図るた め、地元高校生等を 対象とした現場見学 会や会社訪問等を実 施し、導入が進むICT 技術の知識習得や先 輩社員からの講話な どを通じて建設産業 への興味・関心を高め ることを目的とする。	13,520	1. 大曲工業高校生を対象としたICT現場見 学会 【期日】令和2年9月15日 【場所】一級河川淀川 【人数】20名 【内容】ICT建機による施工実演・試乗、3次 元測量の実演、ドローン操作体験 他 2. 大曲工業高校生を対象とした大規模な土 木・建築工事の現場見学会 【期日】令和2年10月13日 【人数】70名 【場所】成瀬ダム 他 【内容】実際に工事中の現場見学を実施	県	高校生	令和2年4月1日 令和3年5月20日	ICT現場見学会実施後の参加 者アンケートでは、「建設業に就 職したいと考えており進路検討 の参考になった」、「建設業界が どう発展していくか興味をもっ た」、「女性でも機械操作でき ることを知った」等、建設産業への 関心度を高める成果を得られ た。 また、大規模な土木・建築工 事実施後の参加者アンケートで は、「完成すると見られない部 分を見学でき良い経験となっ た」、「作業員や機械の数に驚 いた」、「学校で習ったことと照 らし合わせながら見学でき勉強 になった」等、実際に稼働してい る現場を見学することで、建設産 業の魅力を伝えることができ た。	ICT現場見学会については、難解な3次元 測量や建設機械の無人施工の仕 組みなどの理解を深めてもらうた めに、一層生徒目線に 立った説明が必要である。 大規模な土木・建築工事の現場見 学では、70名規模となったことか ら、誘導や説明の仕 方などに課題が生じたため、実 施計画段階で 進行手法や班編制等について、様 々な検討を加えていく必要がある。 実際に見聞きする機会を設けたこ とで、建設産業について理解し、 建設企業で働くイ メージを持てる好機となったほか 、建設業の 担い手育成についてPRできた。 今後、県外・大手企業にはない県 内就職の 魅力を一層伝えることや、対象を 中学生まで 広げるなど、担い手の裾野の拡大 に向けた取 組を行っていく。